

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	災害時のペット関連を主とした支援活動
資金分配団体名:	公益財団法人佐賀未来創造基金
実行団体名:	特定非営利活動法人日本レスキュー団体
実施時期:	2021年4月～2022年2月
事業対象地域:	九州
事業対象者:	災害弱者（ペット、高齢、障害、外国人など）

Version 3.2

日付: 2022年3月14日

I. 事業概要

事業実施概要	<p>これまで犬と共に活動してきた実績を活かし、災害時に災害弱者となり得るペット飼育世帯救済の仕組みを構築する。佐賀県内拠点は、ペット同行避難が可能な避難所およびペットの一時預かり場所として機能させる為に、避難所運営マニュアル作成や、コロナ禍におけるペット同行避難訓練を実施し飼い主の意識改革を図る場とする。またコロナにより他県からの支援が制限される県外の災害でも、直接現地へ赴くことなく連携団体を通じて必要な場所に必要な物を迅速に支援できるように平時からのネットワーク構築を目指す。これと並行して、ペットだけでなく幅広く行政やNPO等と協働し、様々な理由により避難所での生活が困難な方を多角的に支援する。この事業を構築する中で令和3年8月豪雨災害が発生し、佐賀県内（武雄市、大町町）の被害に対して、ペット飼養家庭の支援に留まらない多角的な活動を実施している。</p>
--------	--

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>事業実施期間中に災害が発生し、計画が一部変更されたものの、結果、災害対応によって、多様な団体や機関と実務を通して連携し、想定以上のネットワーク構築が実現された。</p> <p>またコロナ感染拡大により、ペット同行避難訓練は一般来場を中止し、オンラインによる配信と関係者のみの訓練を余儀なくされたが、地域にとどまらず全国へ配信できたことや、この配信に関して佐賀県のHPに掲載され連携出来たこと、さらには、避難所運営時の課題確認や動きの把握等、運営マニュアルの詳細まで協議しマニュアルを作成することができた点は良かった。しかし、配信内容の訴求効果は不確かであり、飼い主への意識改革は十分に行うことができなかった。</p> <p>令和3年8月豪雨災害支援活動では、スタッフ1名が大町町に約2か月間張り付き、行政や社協、佐賀災害支援プラットフォーム（SPF）と密に連携をとりながら、幅広い支援を行った。具体的には、ペット世帯への物資支援や散歩代行の他、コミュニティづくりのためのイベント開催やサロン活動、ヒアリング調査、また、企業や団体、個人から届く支援物資やボランティアなどの支援ニーズをそれを必要としている方々へ繋ぐ中間支援活動を行った。</p> <p>災害対応を通して、町民の約三割はペット飼育世帯であることが把握でき、水害ではなく、地震の場合は避難者数の大幅な増加が見込まれ、当施設での受け入れにも限界があることが課題となった。当施設を稼働させモデル化し、それを全国に広めていくことと同時に、行政の避難所でのペットの受け入れをどのように進めていくか、という課題が無くなった訳ではないということを再認識した。例えば、行政避難所でのペット受け入れマニュアルの作成や有事の際の相談役としてのサポートなど、今後は、行政職員の不安を取り除き、行政の避難所でのペット受入を可能にするための取り組みもモデルが必要であると感じた。</p>
-------------------	--

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
その他	その他	コロナ禍におけるペット同行避難所に必要な設備及び備蓄が整っている	設備および備蓄の内容	最大12世帯、24名 発熱者1世帯 受け入れが可能	最大12世帯24名 発熱者1世帯 収容が可能	段ボールベッドやパーテーション、感染対策用品をはじめ、感染対策を徹底した避難所運営のための設備を揃えることができた。避難所収容に関しては、目標値達成また場合によってはそれ以上の受け入れも可能だが、避難所としての最適値は目標値（最大値）よりも下回るため、有事の際にどちらを優先すべきか検討が必要。
その他	その他	ペット連れの地域住民が訓練に参加し、拠点の周知と飼い主の意識改革が行われている	訓練参加人数、訓練後のアンケート調査内容	訓練参加人数：20～30組	オンライン配信視聴者数：延べ120名 チラシ配布数：3000部以上 ペット災害対策パンフレット配布数：200～300	まん延防止措置のため一般参加の避難所訓練は実施できず、アンケートは関係者のみにとどまるが、オンライン配信において避難所体験デモンストレーションを行った。拠点の周知は大町町全戸約2600世帯にチラシを配布できた。また、オンライン配信にはのべ120名ほどの視聴があった。
その他	その他	運営マニュアルが作成されている	マニュアル内容	マニュアルは、自団体のみの情報や知識ではなく、行政や他の市民活動団体などネットワーク会議での内容が盛り込まれている状態	行政、市民団体、専門家の意見等が盛り込まれたマニュアルを作成した	大町町総務課、大町町社会福祉協議会、佐賀大学医学部の意見とアセスメントを経て作成。今後さらなる改善とこれを基にした訓練を実施する。
その他	連携の不足	ネットワーク会議が実施され、県内ネットワークが構築される。（佐賀市、大町町、武雄市、県獣医師会、災害支援ネットワーク：医療、外国人、ファンドレイジング、ロジ他）	ネットワーク会議回数および会議参加団体数	ネットワーク会議：12回	ネットワーク会議：20回以上	令和3年8月豪雨災害でのネットワーク会議に積極的に参加することで、図らずも当初目標としていたネットワーク構築よりも強固なものとして達成できた
その他	連携の不足	ネットワーク会議が実施され、県外ネットワークが構築される。（福岡県：獣医師会、ワンヘルスネットワーク、熊本県：熊本県動物愛護センター、市民団体、大分県：NPO）	ネットワーク会議回数および会議参加団体数	ネットワーク会議：12回	ネットワーク会議：5回	豪雨災害により遅れが生じ、計画通りの会議を実施できなかったが、熊本県内の活動団体を通じて熊本県/熊本市動物愛護センターとの連携構築ができていた。また、令和3年8月豪雨災害の支援活動を通じて県外団体との連携の足掛かりができた

その他	その他	地域に根付き住民の生活再建のために中長期的に支援ができる	令和3年8月豪雨災害における ・直接支援者数（被災者） ・連携自治体数（佐賀県及び基礎自治体） ・連携団体数（佐賀県内外）	大町町および武雄市を中心に多角的な支援を実施し災害の全容を知ること、ペット飼育世帯の支援に繋がり、実態の把握ができる ・大町町および武雄市での活動が同様の課題を抱えた市町のモデルとなる	・大町町：総支援件数351世帯881名（内ペット支援件数49件） ・武雄市：総支援件数58件（ペット世帯） ・セラビードッグ慰問活動（大町・武雄）：9か所、合計17頭派遣、対象者120名以上	特に大町町に職員を配置し行政や社協、県内外ネットワークと連携したことで、総被災件数351件（内ペット飼育件数75件）を把握し、支援に繋げることができた。嬉野市社会福祉協議会をはじめ、他の自治体や機関がペット同行避難支援について関心を深め、協議や意見交換ができたことも、地域に根差した活動の継続によるところが大きいと考える。
-----	-----	------------------------------	--	---	---	---

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	この活動を通して、多様なノウハウを持ち合わせた避難所の運営とすべての住民の安全を確保できる社会を目指す。まずは、コロナ禍でも安心して避難ができる備えを充実させ、ペット連れの「避難所」の指定を目指す。そして、この新しい考え方や仕組みをモデル化し、九州全域に波及させることで、コロナ禍において九州のどの地域が被災しても、すべての被災者へスムーズな支援を届けられる社会を目指す。令和3年8月豪雨災害支援の実践における佐賀県や地域行政、県内外の団体との連携は、今後の目標を具体的に示しているため、掲げた目標は達成されている。
考察等	段ボールベッド、パーテーション、机、イスの他、コロナ対策として、空気清浄機や発熱者の一時避難場所の設置など、避難所の運営に必要な備品を揃えた。また災害時は、多様なCSOが拠点に集結し被災状況の把握を連日ミーティングするため、大型の電子黒板を配置し、スムーズな支援体制を構築した。また、ペット同行避難訓練を行った。訓練では、コロナ感染拡大により住民参加が中止となり、飼い主へのアプローチは不十分となったものの、関係者間で様々な想定を協議し、運営マニュアル（案）を作成することができ、有事にペットを受け入れる準備を整えることができた。今後、この事業がモデル化され九州全域に波及される為、施設の備えや避難所マニュアル、他機関との連携、これまでの歩み、実績等を資料としてまとめ発信していく。

V. 活動

活動	進捗	概要
県内ネットワーク構築	ほぼ計画通り	令和3年8月豪雨災害対応で当初の予定通りに進まなかった。しかしこの災害における直接的な支援やネットワーク会議での情報発信にて、図らずも計画していたことが達成できた。また災害支援を通して、新たな機関との連携も実現した
県外ネットワーク構築	遅延あり	熊本県内の団体を通じて熊本県/熊本市動物愛護センターとの連携構築ができている。また、令和3年8月豪雨災害の支援活動を通じて県外団体との連携の足掛かりができた
避難所運営訓練準備	計画通り	関係先への調整や広報については計画通り進めていた。直前の一般参加中止により内容を大幅に変更し再調整が必要となったが、できうる限りの内容を盛り込めるよう準備を進めた
避難所運営マニュアル作成および印刷	計画通り	計画した範囲では達成できたが、今後更に多様な組織と連携しより良いものとして改善させるべき。行政や既存の連携先の他、日本赤十字社、獣医師会、動物関連機関などとの連携等についても盛り込んでいく。また、感染症対策の徹底、陽性者・発熱者が出た際その他機関との連携についてもマニュアルに盛り込む。
設備什器の購入、拠点への搬入	計画通り	計画通りの新型コロナウイルス対策用の什器を搬入。緊急時の電力を供給する大型発電機、緊急時は感染者の一時隔離用で普段は備蓄用の倉庫のプレハブ、会議用長テーブルと椅子と電子黒板、避難所用の段ボールベッドと間仕切り、コロナ対策用空気清浄機、非接触型検温器、フットペダル式ディスプレイ、デジタルサイネージ。2月4日までにすべて建物に搬入済。
令和3年8月豪雨災害支援	計画通り	被災世帯へあらゆる手段でアプローチをしたが、取り残された被災者がいないか再確認が必要。既存の活動に囚われず、状況に合わせた多様な支援ができるよう、活動を振り返り次に繋げることが重要。併せて次の災害に備え住民に対して防災の啓発も行う
避難所運営訓練	ほぼ計画通り	訓練により、避難所収容の最適値は最大値を下回ることが分かった。収容する世帯員の見直し（原則1世帯1名+ペットのみ）を行い、状況に応じてどちらを優先すべきか検討が必要となる。加えて今後、定期的な訓練・アセスメントを経た改善の繰り返しにより避難所の本格稼働を目指す。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	想定していなかった令和3年8月豪雨災害で再び佐賀県内が広範囲で被災した。特に被災した地域での支援活動がきっかけで、ネットワーク構築がさらに広がりを見せた。大町町以外では特に嬉野市社会福祉協議会がペットとの同行避難に興味を示しただけでなく、この災害において佐賀県内の災害支援ネットワークの一員として活動したことが評価され比較的被害の小さかった佐賀県東部地区（鳥栖市）から、また、佐賀県動物愛護推進員研修会においても今後の防災減災に関する講演会に講師として呼ばれ、更にペット飼育世帯をどのように支援するのかの興味が広がったと考えられる。また今回の災害を経験したことで、いつどこで災害が発生してもおかしくないということを更に強く認識することに繋がり、基調講演で講師が伝えていたペット同行避難は「動物」の問題ではなく、被災した「人」そのものを支援するということを強く認識するに至ったと考えられる。
---------------------	--

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	避難所に必要な設備や備品が整い、ペットの受け入れ態勢ができたことで、ペットの対応に困惑していた行政の負担軽減やペット世帯への安心に繋がった。また、事業を通して平時から様々な団体や行政と連携することで、災害時にはこの拠点に多くの支援団体が集結し、被災地の状況を情報共有することで、支援が行き届きにくい災害弱者の救済が促進された。
-----------	---

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
一般社団法人HUG	避難訓練イベントにおける基調講演、避難所運営マニュアルや災害対策パンフレット等の監修を依頼。佐賀県生活衛生課に訪問し平常時の協議会設置の提案を行った。
一般社団法人おもやい	イベントへの協力要請をしていたがコロナにより縮小。避難所稼働の際の広域避難時の連携体制構築について提案、今後協議や訓練を実施する
大町町	避難所運営における行政との連絡体制について協議。今後の協議・訓練を通して連絡体制を強固にしていく
NPO法人アニマルライブ	令和3年8月豪雨災害において、被災ペット世帯の情報交換を随時行い、預かりニーズや物資ニーズなどに関して連携した活動を行った

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。(精算金額と一致させる必要はありません)

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	17,896,382	17,989,536	100.5%
	管理的経費	2,000,549	2,000,549	100.0%
合計		19,896,931	19,990,085	100.5%

補足説明	
------	--

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)	ケーブルワン10月12日～13日ほか (令和3年8月豪雨支援活動) 佐賀新聞10月12日 https://www.saga-s.co.jp/articles/-/753051 (令和3年8月豪雨支援活動) 広報おおまち11月号 (令和3年8月豪雨支援活動)
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	令和3年8月豪雨災害支援チラシ (約300部) イベント広報用チラシ (約3000部)、ペット災害対策パンフレット (10000部)、ロゴ入りオリジナルマスク (500枚) 避難所運営マニュアル
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法 (事例)	上記のイベント広報用チラシ初版部にシンボルマークを掲載。当協会広報誌 (年4回発行) Vol.80夏号にシンボルマークと休眠預金を活用している事業の旨を記載。2月6日当協会のインスタグラムとフェイスブックアカウントにて拠点紹介のライブを行った際に休眠預金にて購入した什器、その什器に貼ってあるシンボルマークのシールを説明。
4.報告書等	後援名義使用に係る報告先：環境省、佐賀県、大町町、佐賀県獣医師会 オンライン配信に馴染みのない大町町住民に向けて、当日のイベントの写真を集めたアルバムを作成し、閲覧できるようにする

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	全て公開した	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	はい	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input checked="" type="checkbox"/> 外部監査 <input type="checkbox"/> 内部監査 <input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	